

他の多くのメーカーで作られている半導体アンプ（デジタルアンプを含む）と異なり、「情報量が桁外れに多い」「繊細な音色も表現しつつ豊かな低音」スピーカーの音に癖を感じることがあります。いつも特有の音色や音の出方があり、その原因はスピーカーにあると考えていたのが、実はアンプに原因があったというのが本当だったようです。確かなドライブ力、そしてニュートラルな性格の無帰還アンプに換えて聴くと、スピーカーの固有の音ではなかったことがよくわかります。無駄なところにコストを投入してもアンプが原因の癖は解消されません。コストに重きをおいた特に高額なアンプは、立派な電源、高価な部品、重量級の筐体をそなえていますが、決してよい音、忠実な音を聴くことは出来ません。その理由ははっきり説明できます。いままでの多くの半導体アンプはスピーカーとのマッチングを考慮していなかったのです。始めてこの問題を解決したのが、無帰還アンプです。このアンプは真空管アンプと同様にドライバートランスを搭載しています。いくつもの重要なポイントが、スピーカーとのマッチングを理想的に実現します。

(仕様)

1. 寸法 230mm×270mm×90mm
2. 質量 3.0kg (本体、ACアダプター含まず。)
3. Gain 33.0dB / INPUT to OUTPUT
4. 最大出力 6W / 6Ω
5. マッチング・スピーカー・インピーダンス 4Ω～16Ω
6. ノン・フィードバック回路方式
7. オール・シリコン・トランジスタ
8. ディスクリート・トランジスタ・プリアンプ内臓
9. ドライバー・トランス搭載
10. BTL出力回路 スピーカー端子L, Rは互いに独立。(L, Rのマイナス端子は共ではありません。)
11. オール・フィルム・コンデンサ
12. 大容量電解コンデンサ不使用
13. 最大消費電力 50W
14. 待機電力 2.5W (POWER-SW OFFでも一部の回路が動作しています。)
15. 付属ACアダプター AC100V～AC240V / DC18.0V 3.33A

「無帰還アンプ」

無帰還アンプでドライブされるスピーカーは力強く、また繊細に音楽信号を表現します。音楽信号のピーク時のクリップ波形が真空管アンプと同様に、ハードクリップではなくソフトクリップの波形に似ています。

「音質、スピーカーのドライブ力を損なう要因」

1. 多量の負帰還をかけること
2. 多量のトランジスタを使った回路。増幅回路の他に安定化回路などの付属回路が多い。
3. 回路の一部または全体にICを使う。ICには多くのトランジスタが存在し、さらに多量の負帰還をかけている。
4. DCから超高域まで増幅する回路。入力に加わるすべてのノイズ成分を増幅し出力に伝える。
5. 大容量の電源回路。ここに大容量の電解コンデンサを搭載すると、アンプに流れる高速な信号に対して速い応答ができない。大容量の電源トランスを搭載すると、AC電源1次側からのノイズの流入が多くなる。